

## ここぞと インタビュー

11月20日は、「さがみはらこども権利の日」。これは、昨年施行された「相模原市子どもの権利条例」から生まれた日です。日本国憲法の大きな柱・基本的人権を考えると、こどもたち、障がい者など弱い立場にある人たちの人権に目配りすることはとても大切だと考えています。折りしも10月、神奈川県は津久井やまゆり園事件を受けて、『ともに生きる社会かながわ憲章』を制定しました。

ひとりひとりの「いのち」を育むまちとして、「ともに生きる」市民となるために、どうしていけばいいかを考えなければいけません。このまち在住の教育評論家・長谷川孝さんにインタビューさせていただきました。

## 相模原を「人権文化のまち」に



長谷川 孝さん 『さがみ風つ子展』会場の淵野辺公園にて撮影。相模原市南区在住。教育評論家。元毎日新聞編集委員。相模原の教育を考える市民の会・代表

—— 緑区千木良の県の施設「津久井やまゆり園」で言語に絶する惨事がありました。県議会は、「ともに生きる社会かながわ憲章」を決議しましたが、なにか“心に響かない机上の作文”という印象があります。

**長谷川：**この憲章を読んですぐに、痛みの薄い速成の憲章と感じました。特に言葉の選び方についてです。例えば「……19人が死亡し、27人が負傷するという……事件が発生した」「……いかなる偏見や差別も排除します」と書いていますが、私なら「死亡」ではなく「命を奪われ」「殺され」は避けて、「負傷する」ではなく「ひどい傷害を負わされた」と書きます。

また偏見や差別は「排除の論理」なのですから、「排

除します」ではなく、「許しません」とか「否定します」にします。

—— せめて起草委員会を設けて、きっちりと議論してほしい気がするのですが……。

**長谷川：**確かに。半数以上の障がい者を加えた起草委員会でじっくりと議論し、煮詰めるべきだったと思います。単に障がい者だけでなく社会的弱者、少数者の存在の意味や価値を否定する、まさに「いじめの極致」、極端なヘイトクライム※。だと捉えて、深い議論があってもよかったと思います。

—— 10月12日付け毎日新聞の「記者の目」で、取材記者が「真の被害者は誰なのか」と問い掛けていましたが、どう思われましたか？

**長谷川：**殺傷された46人だけが被害者ではない。生存権を否定された障がい者や難病の人、寝たきりの重病者、要介護の人なども、もみんな被害者です。と同時に「真の加害者は誰なのか?」、容疑者は単なる実行者かもしれない、彼をして「実行させた」背景は何か、とも考えさせられます。

優性思想も、社会に役立てと求める能力主義や生産力主義も、根強い。この社会を覆っている“みんな同じ”方向への同調・同化の圧力と、“みんなと違う”ものへの排除欲求もあります。でも、誰もが一人ひとり違った存在、つまり「天上天下唯我独尊」で「みんな違ってみんないい」のです。それが「個人の尊厳」であり、基本的人権です。

憲法97条は「人類の多年にわたる努力の成果」と謳っています。この惨事をどう受け止めるか、相模原を「人権文化のまち」にするために、考えたいと願います。

※偏見や憎悪が元で引き起こされる暴行等の犯罪行為のこと

さがみ風つ子造形展会場（淵野辺公園）にて（2016年10月23日撮影）

### ともに生きる社会かながわ憲章 ～この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します～

平成28年7月26日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において19人が死亡し、27人が負傷するという、大変痛ましい事件が発生しました。

この事件は、障がい者に対する偏見や差別的思考から引き起こされたと伝えられ、障がい者やそのご家族のみならず、多くの方々に、言いがたない衝撃と不安を与えました。

私たちは、これまでも「ともに生きる社会かながわ」の実現をめざしてきました。

そうした中でこのような事件が発生したことは、大きな悲しみであり、強い怒りを感じています。

このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日 神奈川県

問合せ先 神奈川県保健福祉局福祉部障害福祉課  
電話045-210-4703 FAX 045-201-2051



最近、話題になっている「こども食堂」。耳にされたことがあるでしょうか？ こども食堂とは、こどもが一人でも安心して来られる無料または定額の食堂のこと。2012年、大田区の小さな八百屋さんがそうネーミングして始めてから、またたく間に全国に広がり、いまや、全国でおよそ300箇所のこども食堂が開店しているとか。わたしたちのまち・相模原でもその動きは広がり、活動を展開しています。そのいくつかを取材させていただきました。そして、見てきたこと。こども食堂はこどもの食堂ではない、ということ。こどもたちにとって安心の居場所になれば、そこは地域のコミュニケーションの場になります。そうすれば、お互いの課題もつけて共生へのステップを見つけていけるかも。こども食堂は、すべての人、みんなの食堂になって、地域を育む仕掛けとなりそうなのでした。

こどもたちの居場所づくりのために、市内のこどもセンターで夜間開放している南区の2館もお訪ねしてみました。



# 特集 こども食堂&こどもの居場所、そして、みんなの。

■夜目にも明るくこどもセンターが浮かんでいました。覗いてみると、ワイワイガヤガヤとこどもたちがすっかりくつろいだ様子であちこちに丸くなっています。卓球をやったり、ダンスの練習をしたり。「先生も親もいなくて自由で楽しい！」とこどもたち。学校で約束して誘い合って来るのだそうです。

■指導員の方は、干渉し過ぎず見守る姿勢に徹しています。数人の大学生がこどもたちの間に入って相手をしています。中高生のための夜間開放なので、高校卒業と同時に遊びに来るのも卒業になるのだそうです。センターには学童クラブもあるので、小・中・高校生として利用して、その後、大学生指導員として後輩の面倒を見るようになる人もいます。それもそのはず、夜間開放を始めて、今年なんと14年目。こどもたちの成長を実感しながら運営されてきたわけです。

■公民館のフリースペースで窮

屈そうにしているこどもたちと少し様子が違って見えたのは、この施設があくまでもこどもたちのための施設だからでしょうか。事業に縛られず、こどもたちだけで来ることができ、束縛がなく自分の選択で来られるスペースが、心の中でも大切な居場所になるように思いました。

■団地のなかに位置していることもあって、利用しているのは近所の子たち。親御さんも安心して行かしてくれます。夜間開放が始まってから、ずっと続けているのは、夜間開放時間の終了を告げる館内放送です。

■「今日の金曜ロードショーは〇〇です」という放送は、こどもたちが9時に間に合うように帰宅を促すための、ユーモアのある呼びかけのように感じました。地域にコミュニティーが失われることが云々される昨今、こどもたちの居場所づくりから地域のつながりを回復させていく試みがこの夜の灯りから重ねられているのです。



限られた予算のなかで工夫しています。写真は、環境情報センターがイベント用に貸出しているリサイクル食器。写真の台になっているのは、リサイクル食器専用の洗浄機。強力サポートをしてくれました。

## 環境情報センターが「ふじみ・みんなの食堂」に♡

中央区富士見1-3-41 ☎ 042-769-9248

月に2回 開店するのが目標！ PM6:00 ~ 7:00

民生委員24年歴のNさん、ご飯作りなら自分でもできそうだったし、働いている母子家庭のファミリー・サポートの体験もあって思い立ったそうです。近所の中学生を家に招き入れてご飯を食べさせながら、こういうこどもたちが他にもいるんじゃないか、と思ったし、民生委員として一人暮らしの高齢者も気になっていた、と。だからこそ「みんなの食堂」を発意。ところが、当てにしていた公民館の調理室が使えなくて困った時に、気づいたのが環境情報センターでした。環境情報センターには調理室はありません。活動室にガスコンロはあっても、お鍋も包丁もありません。でも、環境に良くするためのリサイクル食器がたくさんありました。8月18日に始まった食堂は、地域小学校のPTA 会長や自治会々長、地区社協の手助けを受けながら主婦ならではの工夫を重ねて、開催されています。さらに、中央区の中で横につながって「みんなの食堂ネットワーク」も誕生して、拡がりを実現しているのです。

## 中央区みんなの食堂ネットワーク



■テーブルに花を欠かしたことがない、と、どのテーブルにも季節のお花。帰りはお土産になるそう。きっかけは、「あさやけ子こども食堂」の講演会から。生活クラブの仲間たちでこどもたちの「今」に想いを寄せて、生活クラブの配送センターの2階、調理設備がある広いスペースをお借りして、『みんなの食堂』がスタートしたのは、今年の5月27日のこと。

■お腹をすかしたこどもたちはもちろん、共働きの家庭や高齢者の孤食、赤ちゃんと抱えたママたちも、で、こどもと大人が出会えるよう「みんな」に。

## 大野台こどもセンター

大学生の手を借りて夜間開放

毎週 水曜日 18:00~21:00

毎月第2・4金曜日 16:30~18:30  
こども 100円  
大人 300円  
生活クラブ相模原センター (中央区相生3-9-23)

こどもと大人が出会って、大人の居場所にもなるように「あいおい・みんなの食堂」

相模大野駅北口・モアーズ1階のファミマの角を曲がったところにあるお店・麺屋「鼎」さん。土日を含めた毎日 PM2:00 ~ 6:00 の時間帯に「福祉こどもラーメン」の提供をしています。月曜日1杯200円、お母さんと

peco  
こども食堂  
毎月第2・第4水曜日 18:00~19:30  
場所：南保健福祉センター 3F調理室  
小学生・中学生以下無料  
高校生 150円 大人 300円



工夫。(写真はこの日のメニューのピビンバ) こどもたちと一緒に仕上げ、みんなで楽しく食べる。料理が覚えられし、下宿生活でいつも一人で食事していたから楽しい、バイトとは異なる経験ができると、みなさん前向き。市の広報などで宣伝し、毎回20~30人が来客。こどもたちの会話からいろいろな状況がみえてくることもあると語る様子、大学生ならではの、こどもたちとの交流の様子は、とにかく頼もしく微笑ましいものでした。

♡ 本当に来てほしいこどもたちと来てもらっているんだ、それがいちばん

センター  
255-5200  
夜間開放  
金曜日  
時まで

さんが大好き！  
し、、、宿題も教えてもらえるし、、、  
手伝いしてみませんか？

●「キッチン唯利」さんが小田急相模原サウザンロードで開店してから2年足らず。その唯利さんがオダサガでこども食堂をいちばん早く開店しました。思い立ったら実行の人であるママさんは、とにかく気風のいい、気持ちのいい方でした。●いろいろな人が見学に来て、やり始めるきっかけにしてくれてくださる。こどもネットに拡がりました。お店が休みの日曜にやるとしても月1回、いろいろなお店が月1回やってくれば毎日になる、と。●「うちのご飯」がコンセプトの唯利さん、魚に骨があるのは当たり前、高い材料は使えないけど、料理は「こころづかい」と言います。だから、お店にきたら、挨拶から

南区相模大野3-9-3 ☎ 042-746-1455  
かえ 毎週



ここdeシネマ

いい映画をこのまちのひとと一緒にみたら  
このまちで 楽しんじゃお～★キャンペーン!



『不思議のクニの憲法』上映で、この連続上映会開催活動<ここ de シネマ>も第5回を数えます。  
この上映会活動のコンセプトはコミュニティー・シアター。このまちで暮るのが楽しくなるための上映会です。  
そこで、今回から、もうひとつ、楽しい企画を実現しました。すなわち、半券サービスキャンペーン!  
映画を鑑賞したら、手元に残ったチケットの半券を手に、地域のお店のサービスを体験してみてください。  
今回、半券サービスをしてくださるのは、以下の11店舗。いつもの、あるいは新発見のお店を訪ねてみてください。

「ひとりで営業してます。ゆっくりして下さる方、大歓迎!」とママさん。①

ドリンクを半額に!  
かいららら 10:30~20:00 日曜休  
相模大野 5-23-7 ☎042-749-8113



⑤ 2ページでも紹介している「こどもラーメン」のお店です!

ラーメントッピング1品 サービス!  
麵屋 鼎 (かなえ)  
相模大野 3-9-3 ☎042-746-1455



② ランチのデザートサービス!  
漁炉漁炉 相模大野 6-13-8  
Fagotto 相模大野 6-19-8  
かつまさ 相模大野 3-15-10



⑧ ワンドリンクサービス!  
大野ぶどう酒場 ございや  
相模大野 8-2-1 ☎042-748-7559  
黒牛徳 相模大野 8-3-7 ☎042-705-4727

⑩ 新町通り商店街にある美容室です。「エル・プエンテ」って、架け橋のことなんですって。丁寧なカットとシャンプーがとても上手なスタッフいます。

⑩ 代金を5%引きに!  
要・予約  
エル プエンテ 相模大野 9-21-2 ☎042-851-6353



⑪ こだわりの野菜・果物が、なんと!  
野菜と果物を1割引に!  
チャンプール 11:00~19:00 日曜休  
東林間 5-12-7 ☎042-747-2858

⑨ 卵を使った自家製のドレッシングがおすすめですよ~!  
は11月30日までのサービス  
は年内のサービスとなります

⑧ 日本酒もワインも品揃えいっぱいのお店だよ!  
魚介とボルチーニのパエリア半額!  
ビストロ 然 17:00~0:00  
相模大野 8-3-7 ☎042-767-3048  
夜のみご飲食 10%offに!  
西洋の台所 HAMA 日曜休  
相模大野 8-4-7 ☎042-767-7771



★★半券持参の方に限り、1回だけのサービスですよ★★

そして、次回ここdeシネマ 小林茂監督 かげ はもん  
第6回の上映作品は 風の波紋です。

2017年2月4日(土)  
PM2:00 上映開始予定

会場:相模女子大学グリーンホール・多目的ホール

さらに—  
小林監督のトークあり!  
(右写真の方です) もちろん、  
バリアフリー上映!  
穏やかな癒しの  
ドキュメンタリー映画です。



<ここ de シネマ>は「まちづくり」を応援します。  
●市民活動・イベントの告知、情報フライヤーお持ちください。  
お客様が自由にお取りいただけるようにします。●事業主の皆さん、お店情報コーナーを用意します。チラシ置きます。●映画好きのみならず、オフ会企画もどうぞ。●字幕・音声ガイド制作スタッフを募っています。エクセルが使えれば参加できますよ!

『フリー情報紙 こそずたうん』No.14

こぞずっと  
[発行日] 2016年11月  
[発行者] NPO法人こぞずっと  
〒252-0303 相模大野9-6-18  
こぞずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は  
こぞずたうん編集室へ  
[TEL] 042-745-0676 [FAX] 042-742-0447  
[E-mail] info@cocozutto.jp



クリップ・ボード

●半券キャンペーン参加事業者募集中です!  
●<ここdeシネマ>開催ボランティアも募集中です!

市立環境情報センターpresents

市民のための環境講座

～相模原の自然を後世に～地域の取り組みを知る

ここでずっと暮らしたいと願うすべての方にオススメの講座です。  
これまでの市民の取り組みをその中心となった方から聞かせてもらえる連続5回講座。

※都合のつく会のみ参加も可。

- 第1回 11月20日(日)「基地から見た相模原の自然」講師●金子豊貴男さん  
「水道水の水質を守る仕組み」講師●大谷喜一郎さん
- 第2回 11月27日(日)「藤野の自然と文化～里山保全の現場から」※現地見学会
- 第3回 12月4日(日)「動植物調査と緑地募金で残した斜面林」講師●太田浄子さん  
「こもれびの森の保全のあり方を考える」講師●西田和子さん
- 第4回 12月10日(土)「生きものから見た相模川の魅力」講師●秋山幸也さん  
「相模大堰の教訓」講師●岡田一慶さん
- 第5回 12月17日(土)「経済優先策と環境問題」講師●江成常夫さん

※第2回を除き、参加費無料、会場は同センター  
時間帯はいずれも午後1:30~4:30  
※第2回は午前8:30~午後5:00、参加費3000円(バス代、昼食代)

※問い合わせは、環境情報センター☎042-769-9248へ  
NPO法人こぞずっとは  
市民相談窓口を開いています。相談は☎042-745-0676へ。